

職場体験学習

「プロフェッショナルに学ぶ」

教科・領域 総合的な学習

下松市立末武中学校 2 学年

キャリア教育の視点

自分にふさわしい進路選択をするため、働く喜びと苦労を実際に体験することをおして、望ましい職業観・勤労観の形成に役立てる活動です。職業の実際を知り、社会的なマナーを学習することもねらいとしています。

【人間関係形成力・社会形成能力】【キャリアプランニング能力】

本校は、例年、2 年生を対象に職場体験学習を行っている。本年度も 2 学年 8 クラス約 250 人を対象に「プロフェッショナルに学ぶ」と題して、職場体験学習に取り組んだ。目的は以下の 3 つである。

- ① 自分にふさわしい進路選択をするため、職業の実際を知り、望ましい職業観・勤労観の形成に役立てる。
- ② 働く喜びと苦労を実際に体験するとともに、社会的なマナーを学習する。
- ③ 課題の解決に向けて社会や他者とのかかわりを積極的にもち、探究活動に主体的、創造的に取り組む。

職場体験学習に向けて

(1) 1 年時の学習

職場体験学習に向けて、1 学年時には、「身近な職業」と題して、次のような進路学習を行った。

- ① ワークシートに沿って、職業を分類（〇〇を相手にする職業、資格が必要な職業、…）する。
- ② 職業の家族や近所の方など、身近に働いておられる方にインタビュー（聞き取り調査）を行う。
- ③ 調べたことをレポートにまとめ、学級内で発表し合う。

また、ふるさと学習「ふるさとくだまつ大発見！」と題して、地域の特産品や名所、旧跡、偉人等について、地域での聞き取りや現地取材を行い、校外での調べ学習を体験させた。

(2) 本年度の改善点

本校では昨年度まで、職場体験を一日で行って来たが、体験学習をより充実したものにするため、本年度は二日間を実施することとした。また、実施の時期として、これまで 11 月に行って来たが、かぜなどの流行時期や農閑期を避け、1 学期末に実施することとした。

受け入れ事業所への依頼にあたっては、一人ひとりの活動を充実させるため、一つの事業所に 3 人程度の少人数グループで生徒を配属できるよう、例年よりも多くの事業所に依頼し、のべ 105 ヶ所の事業所の協力を得ることができた。また、本市は、海と山に囲まれ、中心部には商業地や工業地を抱えており、様々な職種の事業所に依頼し、協力を得ることができた。

- ・公共機関関係（15か所）
- ・製造業、機械関係（8か所）
- ・農漁業関係（10か所）
- ・福祉関係（11か所）
- ・サービス業関係（14か所）
- ・小売業、商業関係（27か所）
- ・食品製造、飲食業関係（20か所）

生徒の事業所への振り分けにあたっては、アンケート調査を行い、生徒の興味・関心を考慮しながら、事業所を決定していった。

本学習の全体の流れは、右記のとおりである。

事前学習

職場体験活動に向けて、次のような事前学習を行った。

- ・自分の長所や短所などを見つめ、興味・適性について考えさせる学習
- ・働くことの目的や意義について考えさせる学習
- ・職業の特性や必要な資格について考えさせる学習
- ・礼儀、あいさつ、言葉遣い等のマナーを身につけさせる学習
- ・体験学習の準備（事前訪問による打ち合わせ、出勤時間やその方法の確認等）



これらの学習は、自己理解を深め、勤労観をもたせたり社会性を身につけさせたりするための学習であり、キャリア教育の観点から非常に重要である。

当日

当日は、二日間とも、家から職場に各自が直接出勤して体験学習を行い、帰宅する。勤務時間は、事業所によって異なるが、9時～15時を原則とした。

生徒たちは、それぞれの職場で体験したことや感じたことを、体験ノートに記録し、まとめに生かす。

生徒たちの感想には、次のようなものがあがった。

- ・働くことの厳しさと楽しさ
- ・時間を守ることの大切さ
- ・人の役に立つことの充実感
- ・日々、同じことを繰り返すことの大変さ
- ・継続することの大変さと大切さ
- ・あいさつ、返事、言葉遣い等の大切さ

職場体験学習の流れ

※【1学年時】（前年度）

- ふるさと学習「ふるさと下松再発見」
 - ・地域の方へのインタビューや聞き取り調査
- 「身近な職業」
 - ・身近な職業人へのインタビュー等の調べ学習

【2学年時】

5月・事業所への受入れ協力依頼

- ・職場体験希望調査

<事前学習>

- ・「自分を知る」
- ・「職業推理ゲーム」
- ・「働くことの目的と意義」
- ・「働くことの意義」（ビデオ視聴）

6月・体験先発表

- ・事前訪問（事業所との打ち合わせ）

<事前学習>

- ・プロフィール作成
- ・「マナーを守るということ」
- ・事前訪問準備、マナー学習

7月・事前訪問まとめ・確認

- ・前日指導

- ・9日,10日 **職場体験学習**

<事後の学習>

- ・礼状作成、体験新聞づくり
- ・新聞掲示（紙上発表）

10月 文化祭にて

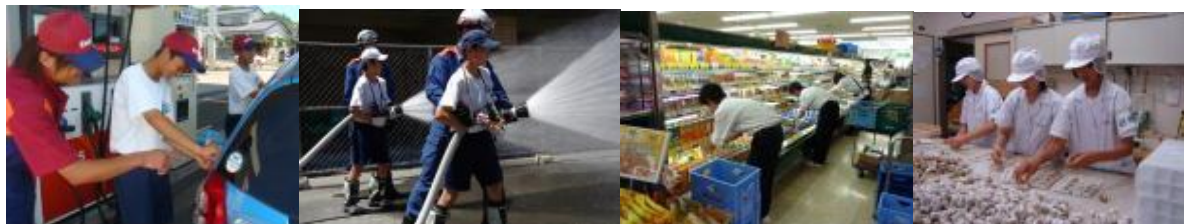
- ・職場体験学習のまとめ発表
- ・プロフェッショナルの名言展示

11月

- ・進路学習
- ・高校調べ

- ・お客様（相手）の気持ちになって考えることの大切さ
- ・感謝の気持ち

生徒たちは、二日間の職場体験をとおして様々なことを感じ、学ぶことができたようである。



事後の学習

体験学習を終えて、次のような学習を行い、振り返りを行った。

まず、礼状を書き、送ることにより、お世話になった職場の方に感謝の意を表した。

次に、体験したことを新聞形式にまとめ、互いに発表し合い、体験を共有した。友だちの体験したことや感じたことを伝え合うことにより、自分の体験をより深く振り返ることができたようである。

文化祭では、他学年や保護者・地域の方を対象に、職場体験の成果を、寸劇を交えて、ステージ発表した。また、体験中、職場の方からかけていただいた言葉や、印象に残った言葉を「プロフェッショナルの名言」として出し合い、展示作品を制作して文化祭で発表した。

2学期の後半から中学卒業後の進路について学習をすすめ、自分の興味のある高等学校についての調べ学習につなげていく。

成果と課題

事後に、訪問した事業所へのアンケートを行った。生徒の活動状況については、概ね「よく頑張っていた」と高い評価をいただく一方、「もっと目的意識をもって活動に臨んで欲しい」という指摘もいただいた。事前学習でしっかりと体験学習の意義や目的について深めておく必要を感じた。二日間の体験活動についてはおおむね「よかった」という回答を得られた。一日では、仕事を教えて慣れた頃に体験終了になるが、二日間だと、次の日に十分働くことができるからというのがその理由である。

職場体験学習をより充実したものとするために、事前に担当教員と事業者の方との十分な打ち合わせの時間をもつことや、体験学習の目的、仕事の内容、配属生徒の状況等について連絡・調整する時間をいかに確保していくかが今後の課題として上げられる。

本校は、学校規模が大きいことから、100を超える事業所に受け入れをお願いすることとなったが、どの事業所も快く承諾していただき、あらためて、地域の協力を感謝している。

生徒たちにとって、地域社会に出て、職業観や勤労観などを培うなど、地域の方から学ぶ学習は大変有意義な活動である。また、実際に社会で働くという体験は、将来の自分の姿を見つめる良い機会になったと思われる。